トーゴ国月報（２０１６年１１月）

|  |
| --- |
| 主な出来事  【内政】  ●２３日、政府のイニシアティブによるトーゴ学校給食に関する国民フォーラムが開催された。教育における学校給食の重要性について国内外の世論を高めるもの。  ●２７日、内部分裂が噂されていた野党・革新行動委員会（ＣＡＲ）を解任されたアペヴォン元党首が、新党「共和国のための民主勢力（ＦＤＲ）」を創設した。  【外政】  ●１４－１７日、ニャシンベ大統領は、マラケシュで開催されたＣＯＰ２２に参加した。  ●２４日、アンタナナリボ（マダガスカル）で開催された仏語圏閣僚級会議で、２０１７年１０月２６－２７日に開催予定の次期閣僚会議がロメで開催されることが決定された。  【経済】  ●４日、ヤヤ経済財務大臣と西アフリカ開発銀行（ＢＯＡＤ）は、トーゴ全国６２カ所の太陽光発電システムによる電化プロジェクトへの６０億ＣＦＡフラン（約１２億円）の融資契約に署名した。  ●１５日、閣議で２０１７年一般予算案が承認された。１２億１，８７０万ＣＦＡフラン（約２億４千万円）で、前年比２６．６％増。  ●２３日、マラボ（赤道ギニア）で開催された第４回アフロ・アラブ首脳会議のマージンで、クウェート基金からトーゴ国家包摂金融基金（ＦＮＦＩ）に対する８０億ＣＦＡフラン（約１６億円）の支援計画が署名された。  【対日関係】  ●２２日、ニャシンベ大統領、難波ＪＩＣＡ専門家出席の下、カラ地方の農村道路改修計画の起工式が執り行われた。 |

【内政】

・１５日、ロメで、国連和平武装解除アフリカ地域センター（ＵＮＲＥＣ）主催によるサヘル地域の安全保障にかかる地域協議会が開催され、サヘル地域６か国（ブルキナファソ、モーリタニア、チャド、マリ、ニジェール）の専門家が会合した。（トーゴプレス紙）

・２３日、政府のイニシアティブによる「学校給食に関する国民フォーラム」が開催された。教育における学校給食の重要性について国内外の世論を高めるもの。政府は、ＷＦＰ、世銀の支援を受け、８年前から学校給食プログラムを開始した。毎年３００以上の学校で９万人の生徒に給食を供している。（トーゴプレス紙ほか）

・２７日、内部分裂が噂されていた野党・革新行動委員会（ＣＡＲ）を解任されたアペヴォン元党首が、新党「共和国のための民主勢力（ＦＤＲ）」を創設した。（トーゴプレス紙ほか）

【外政】

・６－７日、ドゥセ外相はイランを実務訪問した。トーゴ要人がイランを訪問するのは３年ぶり。ドゥセ外相はザリーフ・イラン外相と会談し、政治、経済、科学、文化、農業、衛星、観光、教育分野での二国間の協力関係の強化について協議した。７日には、ドゥセ外相はローハニ・イラン大統領と会談し、二国間関係の強化及びテロ対策について協議した。（トーゴ共和国ホームページ）

・８日、ニャシンベ大統領は、エルシーシ・エジプト大統領と電話会談を行った。エルシーシ大統領は、ロメで１０月に開催されたアフリカの海洋安全保障・海上安全及び開発に関するアフリカ連合（AU）臨時首脳会合の成功とロメ憲章の採択を祝福した。昨年４月にエジプトを訪問したニャシンベ大統領は、エルシーシ大統領にトーゴ公式訪問を提案した。（トーゴ共和国ホームページ）

・１０日、ニャシンベ大統領は、米大統領に選出されたトランプ氏を祝福し、二国間の友好・協力関係をさらに強固なものにしたいと述べた。（トーゴプレス紙ほか）

・１４－１７日、ニャシンベ大統領は、マラケシュで開催されたＣＯＰ２２に参加した。（トーゴ共和国ホームページ）

・１６日、マラケシュ訪問中のニャシンベ大統領は、ＣＯＰ２２のマージンでケリー米国務長官と会談し、テロ対策、西アフリカ地域の治安、ギニア湾における海賊や不正取引等につき協議した。（トーゴ共和国ホームページ）

・２４日、アンタナナリボ（マダガスカル）で開催された仏語圏閣僚級会議で、２０１７年１０月２６－２７日に開催予定の次期閣僚会議がロメで開催されることが決定された。（トーゴ共和国ホームページ）

・２６－２７日、ドゥセ外相は、第１６回仏語圏首脳会議に大統領の代理として出席した。（トーゴ共和国ホームページ）

・２９日、ドゥセ外相はドイツを実務訪問し、ミュラー独協力大臣と会談し、２０１７年４月に開催予定の第２回「トーゴ・ドイツ間協力の春」について協議した。（トーゴ共和国ホームページ）

【経済】

・２日、１０月２０日からトーゴを訪問していたＩＭＦのミッションは、トーゴのマクロ経済の報告を行った。２０１５年の成長率は５．３％、インフレ率は１．８％（推定）を記録する等中期的な成長路線にあると評価する一方、インフラ整備に起因する公的債務の急増について懸念を表明した。（ワラ紙、リベルテ・エブド紙ほか）

・４日、ヤヤ経済・財務大臣と西アフリカ開発銀行（ＢＯＡＤ）は、全国６２カ所で太陽光発電システムによる電化プロジェクトの６０億ＣＦＡフラン（約１２億円）の融資契約に署名した。総費用は２０２億ＣＦＡフラン（約４０億円）で、残りの１４２億ＣＦＡフラン（約２８億円）は西アフリカ経済通貨同盟（ＵＥＭＯＡ）から融資される。（ゴルフ・アンフォ紙、アンデパンダン・エクスプレス紙、トーゴマタン紙、トーゴプレス紙）

・１５日、閣議で２０１７年一般予算案が承認された。１２億１，８７０万ＣＦＡフラン（約２億４千万円）で、前年比２６．６％増。（トーゴプレス紙、リベルテ・エブド紙、アンデパンダン・エクスプレス紙ほか）

・２３日、マラボ（赤道ギニア）で開催された第４回アフロ・アラブ首脳会議のマージンで、クウェート基金がトーゴ国家包摂金融基金（ＦＮＦＩ。金融アクセスから排除されている、トーゴの人口の大部分を占める貧困層への対策として、政府が２０１４年に創設した。）に対する８０億ＣＦＡフラン（約１６億円）の支援計画に署名したことが、アガダジ農業・畜産・水利大臣より発表された。（トーゴプレス紙）

・２９日、クラス首相及び開発パートナー（ＪＩＣＡ、国連機関、世界銀行、アフリカ開発銀行、フランス開発庁等）が出席の下、「成長加速化及び雇用促進戦略（ＳＣＡＰＥ）（第２次貧困削減戦略文書）２０１３－１７」の２０１５年の実績に関するレビューがロメで開催された。経済成長率５．３％、インフレ率１．８％等、良好な経済パフォーマンス等が評価された。（トーゴプレス紙、リベルテ・エブド紙、フォーラム・ドゥ・ラ・スメーヌ紙ほか）

【対日関係】

・２２日、ニャシンベ大統領は、カラ地方の農村道路改修計画の起工式を執り行った。地方の貧困層へのインフラ及び社会サービス等の整備のため、政府が１月に採択した「コミュニティ開発緊急プログラム（ＰＵＤＣ）」の一環。（当館注：本件には日本による食糧援助見返り資金から３０億ＣＦＡフラン（約６億円）を充てている。）（トーゴプレス紙、エヴェイユ・ドゥ・ラ・ナシオン紙ほか）